

日ごろの訓練の成果を発揮 矢巾町消防演習



矢巾町消防演習が6月10日、岩手県消防学校を会場に行われました。町消防団員（藤原由巳団長、団員308人）や自治会の自主防災会など、消防関係者が参加し、日ごろの訓練の成果を披露。町内外からたくさん詰め掛けた観覧者に火消しの熱い心意気を示しました。

午前8時、ラッパ隊のファンファーレとともに演習開始宣言。特別点検では、人員・姿勢・服装や機械器具の点検、婦人防火クラブによる炊き出し訓練、一糸乱れぬ行進を披露した部隊訓練、本番さながらの火災想定訓練、幼年・少年消防クラブによる元気いっぱい演技、放水訓練などが披露されました。また、今回の演習では、ドローンの展示と飛行デモンストレーションを行いました。

講評官を務めた岩手県消防学校の菊池利光校長からは「極めて優秀」と最高の評価。参観した皆さんは、有事に備えて防災体制が万全であることを確認するとともに、防災意識を高める機会となりました。



2



3



4



5



7

【写真の説明】①伝統あるまとい振り訓練を披露、②消防操法訓練で火点を狙う団員、③部隊訓練で号令をかける小隊長、④応急処置訓練で『左腕に対する固定』を行う婦人防火クラブ員、⑤展示されたドローン、⑥演奏を披露するラッパ隊、⑦火災想定訓練での一齐放水、⑧⑨幼年消防クラブの代表園児が誓いの言葉を述べ、演技『江戸火消こ組はしる』を披露、⑩煙山小児童が鼓笛訓練を披露、⑪統監の高橋町長が機械器具を点検、⑫炊き出し訓練で袋に水とお米を入れて炊く『ハイゼックス』を体験中



9



10



6



8



11



12

火災想定訓練

『県内陸を震源とする強い地震が発生し、町全域で震度6強の強い揺れを感じた。管内を巡視している女性消防団が火災を確認し、初期消火および軽可搬ポンプを使用した消火活動。また、隣接する8階建てのビルから白煙が噴き出し、6階に逃げ遅れた者がいるとの通報から、盛岡中央消防隊屈折はしご車が出動し救助。矢巾町消防団は消火活動を行う』という状況を想定し訓練が実施された。

消防団員募集！

熊本地震や東日本大震災など災害はいつ起こるかわかりません。災害が起こったとき、住民の皆さんと力を合わせて町を守る消防団のはたらきが重要な力となります。消防団員は、法律で定められた非常勤特別公務員であり、他の職業と兼職することができます。実際、現在活躍している団員のおよそ7割がサラリーマンであり、年齢層もさまざまです。主な活動内容は、火災防止の広報活動や訓練などですが、実際に火災や災害が発生した際に消火活動や災害防護要員としても活躍します。町内在住の健康な18歳以上の男女であればあなたも消防団員になることができます。皆さんも一緒に、地域を守る活動をしてみませんか。入団希望の方や詳しい内容が知りたい方は、お近くの消防団員、または役場総務課防災安全室（☎611-2708）までお気軽にご連絡ください。